

上田 勉

3・11 東日本大震災と福島第一原発事故から丸9年 今だ 46,678 人が避難生活

3・11 東日本大震災と福島第一原発事故から丸9年が経ちました。津波被害の岩手県・宮城県も複合災害（津波と原発事故）の福島県も、いまだに復旧・復興した状況ではありません。

新型コロナウイルスの関係で、今年の追悼式は、中止になったり、関係者だけが出席する式典になりました。政府は早々と政府主催の追悼式の中止を決定しました。政府主催の追悼式は、来年3月11日の追悼式が最後になります。政府にとっては、復興創造期間の10年間で、完了したと思わせたいのかもしれませんが。その一方で、各市町村は来年以降も追悼式を継続します。

JR 常磐線—9年ぶりに全線開通

“特急ひたち” 東京仙台間を4時間半で結ぶ（1日3往復）

3月14日、JR 東日本のダイヤ改正によって、今まで不通になっていた常磐線の富岡駅⇄浪江駅間が開通して、全線開通しました。

JR 東日本の方針は、被災した地方ローカル線は復旧しないで、廃線にするということでしたが、常磐線が開通して本当に良かったです。

2020 東京オリンピックに向けて、常磐線の全線開通は、政府にとっては至上命題でした。なぜならば、福島第一の原発事故から丸9年経っても、全線開通していなければ、そのことが世界中に発信されて、原発の輸出にマイナスになるからです。

今回の全線開通で、新たに開設された駅は、夜ノ森駅（富岡町）、大野駅（大熊町）、双葉駅（双葉町）の3駅です。3駅共に帰還困難区域の中にあるので、駅へ行くことが出来ません。そこで政府は、特定再生復興拠点地区として、国道6号と駅を結ぶ道路やその周辺を除染して、人や車が通行できるようにしたのです。放射線量は高いです。

さようなら お疲れ様 富岡駅⇄浪江駅間の JR 代行バス—役割を終える

不通だった富岡駅⇄浪江駅間の JR 代行バスは、1日6往復走っていました。しかし、3月13日でその役割を終えました。

私は13日の夜、代行バスに乗って、富岡駅⇄浪江駅間を往復しました。車掌さんの話だと、代行バスは4年6か月の間、毎日休まずに走りました。町の復旧によって、乗客も少しずつ増えました。朝6時から夜8時まで、運転手と車掌さんの苦労は大変だったと思います。

浪江駅では、地元の皆さんが、横断幕をもって、バスを迎えました。富岡駅では、地元の皆さんから、運転手と車掌さんに、花束の贈呈がありました。

私は14日に全線開通した常磐線の特急や在来線よりも、13日に役割を終えた JR 代行バスに、より親近感を持ちました。



【開通した常磐線の乗客を歓迎する地元の人達（JR 大野駅）】



【最後の JR 代行バスー運転手と車掌さんに花束の贈呈（JR 富岡駅）】